

診断京都

No.151

2025 AUTUMN

<https://www.shindan-kyoto.com>



宝厳院 茶席（無畏庵）

02	経営者に寄り添う診断士として
03	診断士の私の仕事
04	京の起業家
06	ねえねえ教えて！支援機関さん！
07	支援事例紹介
08	研究会紹介
09	5RULES
10	協会活動報告
11	はんなり診断士
12	My favorite・京都検定

経営者に寄り添う診断士として

会員の皆様、こんにちは、副会長の岡原です。

今年の夏は本当に暑かったですね。夜は少し過ごしやすくなったかと思えば、温度計を見ると29℃！少し感覚がマヒしています。

さて、私は副会長として対外事業部を担当しています。対外事業部は、行政や支援機関からの様々な事業協力依頼に対応する役割を担っています。従来からの専門家派遣や調査以外にも、新しい補助金事業に関連する専門家派遣や水産事業者の支援など、新しい事業も増え、内容は多岐にわたります。まさに一つひとつが地域企業の未来を形づくる重要な機会だと思いますし、診断士の専門性を発揮して応えることが、協会の社会的な存在意義に直結していると日々実感しております。

一方、時代の流れは大きく変わっています。特にAIの進展は目覚ましく、経営の現場においても資料作成やデータ分析など急速に活用が進んでいます。

こうした変化の中で「診断士の役割はどうあるべきか」と考えさせられます。生成AIに「新規事業の販促策を提案して」と指示すると、様々な視点から驚くほどの確かなアドバイス・提案をしてくれます。その様子は、まるでコンサルタントのようです。AIは膨大な過去の情報を基に最適な回答を導き出しますが、私たち診断士は、現場での経験や数値化できない情報も含めて、経営者の想いに寄り添った提案を行います。ただ、AIから出てくるアウトプットの精度がますます高まる中で、企業支援において「何を言うか」はもちろん大切ですが、それ以上に「誰が言うか」がより重要になると感じています。その「誰」を支えるものこそ、経営者との信頼関係であり、人間性ではないかと思っています。私自身も、会員の皆様との交流や新たな挑戦を通じて、人間性を磨いていきたいと考えています。

京都協会は、会員の皆さまにとって知識の研鑽・業務機会・交流の場を提供する拠点であると同時に、京都における経営に関する知恵の集積地です。AI時代だからこそ、診断士一人ひとりが持つ知恵を結集し、また人間性を高め合い、経営者のよりよき伴走者として中小企業、地域経済に貢献していきましょう。今後とも積極的なご参加とご協力をお願い申し上げます。

副会長
岡原 慶高



地域とあゆむ京都の伴走支援

～想いをつなぎ、地域をつなぐ診断士をめざして～

京都市出身。大学卒業後、「人の夢を応援したい」という想いで京都の地域金融機関に入行。営業店では融資事務や法人営業、個人の資産運用、人事部で採用・教育、京都市役所への出向、コミュニティマネジャーなど、金融業務にとどまらず様々な業務を経験。2024年に一旦退職し、橋本経営相談事務所の屋号で独立。現在は京都市ソーシャルイノベーション研究所 (SILK) にてイノベーション・コーディネーターとして公民連携や地域企業への経営支援など実践中。



1 京都の街を面白く、未来に繋いでいく

京都市を中心に事業承継と公民連携等のお手伝いをしています。事業承継では、将来の事業承継への事前準備や、後継者が主体となり新規事業を立ち上げたい中小企業に対し、経営者と後継者との対話を重ねながら地に足の着いた事業承継計画の策定・事業承継に向けた実行支援をしています。また公民連携では、行政や企業、大学、金融機関、地域住民など、様々な組織の事業連携を円滑に進めていくために、事業を通して地域の課題を解決する仕組みづくりやコーディネートをおこなっています。どちらの分野も「人や地域、事業、想いをつなぐ」という軸を大切に、「京都という面白い街を未来に繋いでいく」という想いを胸に、現場での実践的な支援をおこなっています。

2 京都の文化を未来につなぐために——家業廃業の原体験から生まれた想い

私が中小企業診断士を志したきっかけは、小学校3年生の頃にさかのぼります。実家は西陣で長年着物の卸売をしていましたが、祖父の急逝で事業が傾き、廃業を余儀なくされました。小さい頃から慣れ親しんでいた家業がなくなる悲しさや、何もできない自分へのくやしさを子ども心に深く感じたことを覚えています。

「家計を支えたい」という気持ちが強く、高卒で働くつもりでしたが、両親の後押しもあり大学進学を決意。せっかく学べるなら「経営学を学びたい!」という想いで経営学部を選びました。大学ではソーシャルビジネスを中心に座学や専門書で経営学を学び、大学2年生から実践的なPBLや大学外でも積極的に活動。経済合理性の追求だけではなく、地域や社会を大切にする企業の現場を目の当たりにし、「経営を通

して社会は変えられる」と感じました。

その活動の中で出会ったのが、地域金融機関である京都信用金庫です。僕の人生の軸だった「人の夢を応援する」という想いをこの金融機関なら実現できると思い、入庫を決意。9年間にわたって融資や営業、採用・人材育成、官民連携など金融だけではなく多様な業務に携わり、中小企業診断士の資格も取得しました。仕事を通して経営者の想いに寄り添い、夢の実現を後押しできる存在になりたいという気持ちがより一層強くなってきました。

そして2024年に橋本経営相談事務所として独立。現在は、事業承継や創業支援、公民連携などを通じて、京都の街の文化や歴史を未来につなぐために1人の経営者として尽力しています。小さい頃の自分のように「京都の街や文化・歴史を守っていききたい」「京都をもっと面白い街にしたい」と願う誰かの力になれるよう、地域に根ざした診断士として、これからも歩み続けていきます。

3 社会性と収益性、そして面白いかどうか

私が仕事をする際に大切にしているのは、「社会性」「収益性」「自分が面白いと感じられる事業かどうか」です。地域課題の解決や社会的意義のある取り組みであっても、事業として継続できなければ社会を変えていくことは難しいです。社会性と収益性を両立し、持続可能な事業の仕組みを一緒に作っていけるかが大きなポイントだと思います。

一方で、自分自身がワクワクできるかも重要です。心から面白いと思える事業には経営者さんも私も自然と熱が入り、事業が前向きに進んでいきます。地域や社会をより良くし、関わる人達が楽しむことができる、そんな「面白い」事業にこそ価値があると思っています。

4 京都を“連携”で面白くする街に

私のこれからの目標は、京都府・京都市をはじめとする自治体、地域企業、金融機関、大学、支援機関など、様々なセクターが連携し、京都全体を巻き込んで新たな価値を生み出す「面白い取り組み」を生み出していくことです。特に今後力を入れたいのは、事業承継と公民連携の分野です。

今年度は、IVSのサイドイベントで事業承継のイベントを開催し、600名以上の方々にご参加いただきました。今後はさらに京都の事業承継の熱量を高め、次世代に面白い事業をつないでいく仕組みを作っていきたいと思っています。

また、公民や企業間の連携によって、新たな商品開発や事業が生まれる仕組みづくりにも挑戦したいです。京都の大企業も中小企業も一緒になって、地域全体がワクワクするような街づくりに貢献していきたいと思っています。



IVSのサイドイベント開催の様子

家業廃業の原体験と「人の夢を応援したい」という原点、地域金融で培った現場感が、「社会性×収益性×面白さ」を同時に満たす伴走支援へと昇華していることに胸を打たれました。事業承継と公民連携を横串に、京都の多様な主体をつないで価値を生み出す姿は、IVSのサイドイベントに600名超が集った事実にも表れています。面白いから人が集まり、集まるから次の挑戦が生まれる——。橋本さんの実践は、その好循環の設計図ですね。次回は谷口宏人さんにご登場いただく予定です。(岡部 佳美)

京の起業家

46

京丹波町商工会からの紹介で、焚き火ができる1日1組限定の宿「DANMOME」の代表・阿部まどかさんにお話を伺いました。屋号は「Dance in the moment」の略で、「お客様と一瞬一瞬を踊るように作り出す」という意味だそうです。



「DANMOME」代表の
阿部まどかさん

事業内容について教えてください

主な事業はカフェと宿泊施設です。宿泊施設は計3部屋、最大6名まで1日1組限定で利用できます。プロジェクター完備のため、セミナーやワークショップの開催も可能です。

また金曜の夜限定で居酒屋を営業しています。他には近隣に所有している畑で農作物を育ててカフェで使用したり、道の駅で販売したりもしています。

ふるさと納税の返礼品として、京丹波産米を使用した自家製米麴で作った甘酒を11月から提供する予定です。

起業の経緯を教えてください

ずっと昔からカフェ経営をしたいという夢がありました。旅行会社勤務で多忙だった時期に、夫と行ったキャンプで焚き火を見なが

ら色々話を聞いてもらっていたら、すごく浄化されたような感覚になって、何とも言えない心地よさだったんです。その経験から、「焚き火をしながらお茶や食事ができるカフェ」で、頑張りすぎているビジネスパーソンを癒やしたいと思いました。

焚き火は夕方から夜にかけてが一番きれいなので、その時間帯に焚き火を楽しんだあと、そのまま宿泊もできるとよりいいかなと思い、宿泊施設も考え始めました。もともと大阪の住吉区で民泊をやっていたので、その経験を活かせるとも思いました。

大阪から車で2時間圏内で物件を探していたところ、この京丹波の物件に出会いました。畑がついていること、宿泊用に使える部屋が複数あること、庭が隣家と接しておらず焚き火の煙で迷惑をかけにくいことなど、やりたいことが全て実現できる条件が揃っていて、直感的に「ここや!」と思いました。



自家栽培の野菜も使った色彩豊かなメニュー



落ち着いた古民家の佇まい

焚き火や囲炉裏で
癒しのひととき



起業時に大変だったことは？

創業当初はリフォームや設備投資などで支出が非常に多く、資金繰りが最も大変でした。商工会さんから紹介された補助金やクラウドファンディングの資金がなければ、開業することができなかったと思います。集客も大きな課題のひとつでした。オープン当初は、私たち夫婦の知人や友人の利用に支えられ乗り越えられました。現在は宿泊予約サイトやGoogleマップ経由のお客が増えてきて、リピーターの方々にも支えられています。

起業されて良かったことは？

年間通して色々なイベントに出店するのですが、その際に声をかけてくれる方がすごく増えました。起業前は知り合いが一人もいなくて心細さもありましたが、京丹波に来てから新たに知り合った人たちがたくさん集まってきてくれるようになりました。その人たちが店にも来てくれたり周囲に宣伝してくれたら、いい循環が生まれていて、人との繋がりが深まっていることを実感しています。

職場や家庭以外の「第三の居場所（サードプレイス）」って必要だと思うんです。地位や立場に縛られず、ひとりの人間としてリラックスして、同じ場に集まる人たちと繋がれる場所というか。ここがそういう場所になるといいなと思っているので、それが徐々に実現できていることが嬉しいです。

京丹波町商工会に期待することは？

商工会さんからは役場の補助金などの有益な情報を提供してもらって感謝しています。そういった情報は自ら積極的に調べないと得られませんが、検索してもなかなか見つから

れなかったりするので……。たとえば「〇〇補助金を活用したい」となったら全力で支援してくださるので、本当にありがたいです。今後も継続的に情報提供と支援をお願いしたいと思っています。

今後の目標は？

海外での添乗経験を活かして、多国籍のインバウンドの方々にとっても第二の故郷のような存在になりたいと思っています。

また、この暑さで生育不良の野菜なども増えているので、もっと暑さに対応した外国の野菜などを栽培するのも面白いかなと思っています。

理想としては、来店したお客様がその場で次の予約をして帰るような宿を目指しています。そのためには、季節ごとに異なる新しい体験を提供し続ける工夫が必要だと考えています。

(平澤 夕香)

京丹波町商工会 梅田上様より

阿部さんとは、創業セミナーや起業支援事業費補助金など、創業前からのお付き合いです。初めて会ったときから明るく前向きで、何事にも積極的に挑戦され、「NO」と言わない姿勢には感銘を受けています。ご夫婦共に人脈が広く、すぐに地元の方と仲良くなられる姿は、まるで昔からそこに住んでいたかのようなようです。これからも、「帰って来なくなる故郷のようなお店づくり」など、阿部さんの挑戦を全力でサポートしていきたいと思っています。

焚き火カフェとお宿 DANMOME

〒622-0451 京都府船井郡京丹波町下大久保ダン54

URL : <https://r.goope.jp/danmome/>

Instagram : @cafe_danmome

ねえねえおしえて！ 支援機関さん！

はい、私たちがお答えします。

久御山町商工会の

事務局長 ^{うのくち しんじ} 鵜ノ口 眞司

課長兼経営支援員 ^{かたおか ゆきとみ} 片岡 幸富

経営支援員 ^{なかの ゆう} 仲野 由布 です。



●久御山町の歴史的背景

久御山町は、京都府の南、山城盆地の南西部に位置し、昭和29年に久世郡の御牧村と佐山村が合併して誕生しました。合併当初は純農村地域でしたが、昭和41年国道1号が町の中央部に開通して以来、多くの企業が進出し府内でも有数の工場集積地が形成され「ものづくりのまち」として発展してきました。平成15年には京滋バイパスや第二京阪道路、久御山ジャンクションなどの広域幹線道路が整備され、交通アクセスの拠点となりました。

●久御山町商工会の概要

当会は、昭和47年6月に設立して以来、746の会員（令和7年3月31日現在）に所属していただいております。地域の産業は、製造業が3.5割、卸小売業が2割、運輸業・建設業・飲食業はそれぞれ1割未満という構成です。



久御山町商工会外観

●久御山町商工会の主な活動内容

1. 経営改善事業の実施

当会は、「ひとづくり・ものづくり・まちづくり」を掲げ、中小企業・小規模事業者が抱える様々な課題の解決を図るための伴走支援や中小企業応援隊事業を推進、宇治商工会議所・城陽商工会議所との広域連携事業として創業塾を開催しています。

2. 地域産業のPR事業の実施

地域産業をPRする久御山町産業売込み隊事業による展示会への共同出展や、地元ニーズに応える事業として、人材確保につながる「会社説明会」の実施などに取り組んでいます。

3. 特徴的な活動

先ほど展示会への共同出展の話が出ましたが、工業の町久御山町として、中京圏で開催されるメッセナゴヤへ年1回出展しております。製造業の多い地域へ産業集積地のアピールを行い、新規の取引先を獲得するなど成果も出ています。

また、昼間人口が約170%になる久御山町では、町内の企業に勤める多くの方が町外に居住しており、事業所間や従業員同士の交流も乏しいのが現状です。そのため、地域コミュニティを支える人材の不足や、災害時における共助機能の低下が懸念されています。こうした状況を踏まえ、当会では交流会の開催に加え、年3回ほど、従業員参加型の町道や工場周辺の美化活動を企業の皆さまと共に実施しています。直近では、20社から66名の方にご参加いただきました。



メッセナゴヤ



美化活動

●今後の展望と中小企業診断士に期待すること

現在、事業者を取り巻く環境は非常に厳しく、経営改善が急務となっています。当会は、販路開拓や取引拡大に資する経営課題への対応のために、企業間マッチングの推進に注力しております。そのため企業ガイドブックの情報更新を進めており、企業情報の収集にあたっては、企業訪問やヒアリングを通じて、中小企業診断士の皆様にもご協力をいただいております。中小企業診断士には、現場で事業者と共に悩み、課題解決に向けた伴走支援を行っていただくことを期待しています。

久御山町商工会は、今後も中小企業診断士との連携・協力を強化し、地域経済の持続的発展に向けて取り組んでまいります。

(牧野 太郎)



久御山町商工会

〒613-0036 京都府久世郡久御山町田井浜代5-1

TEL : 075-631-6518 FAX : 075-631-6750 <https://kumiya.kyoto-fsci.or.jp/>

支援事例紹介



企画・デザイン業における ジュニアボードプロジェクト の実践

石井 規雄

今回紹介するのは、創業77年の企画・デザイン業A社で実施した、若手・中堅社員参画型の経営活性化プロジェクト「ジュニアボード」の事例である。A社はブランディングやパッケージ制作を強みとし、全国展開しているが、経営幹部層の育成不足やベテラン社員のノウハウ継承、人材が育つ仕組みの欠如が課題となっていた。

支援のきっかけは、京都商工会議所主催「知恵の経営セミナー」受講と、その後の「知恵の経営報告書」作成支援である。この過程で浮かび上がった課題を解決するため、次代を担う中堅・若手社員が経営課題を直接議論・提言する場として、ジュニアボードを常設することが決まった。

ジュニアボードとは、若手・中堅社員が疑似的な経営会議メンバーとなり、自社の将来像や戦略をテーマに議論し、経営陣へ直接提言する仕組みである。営業・企画・デザインなど職種や拠点の異なる社員が参加し、毎月の定例ミーティングで討議を重ねる。議題は「知恵の経営報告書」で整理された経営課題から選定し、提言は経営会議で審議される流れを取ることで、発言が実行につながる環境を整えている。

今回のテーマは「三位一体営業スタイルのバージョンアップ」。営業・プランナー・デザイナーが連携する同社の強みを再構築し、属人的営業からの脱却を目指すものである。進行にあたっては、各段階でビジネスコーチングのGROWモデル（Goal＝理想像、Reality＝現状把握、Options＝選択肢の創出、Will

＝意思決定と行動）を活用した。初回は理想像（Goal）を言語化し、次に現状とのギャップ（Reality）を共有、その差を埋める選択肢（Options）を多面的に検討し、最後に実行意思（Will）を各自が表明する流れで進めた。これにより、議論が具体策に直結し、メンバーの主体性を引き出すことができた。

中小企業診断士としての役割は、定例ミーティングへの参加とファシリテーション、意見集約の助言、提言の実行支援である。支援期間は2024年2～7月で、若手の意見を経営に生かす風土づくりを狙った。

成果として、提言の一部が経営会議で承認され、営業・企画・デザイン横断チームによる提案活動が開始。ジュニアボードは「若手版経営会議」として月例開催が継続し、社内リソースの配分も行われた。参加者からは「経営を中長期視点で考える力がついた」「他拠点との比較で課題が見えた」などの声があり、部門を越えた人脈形成や経営知識の習得、行動変容も確認された。

経営トップは「社員が自ら課題を見つけ、解決策を実行する動きが芽生えた」と評価。今後はメンバー交代制の導入や、実行支援体制の強化を通じ、継続的な自走型組織への進化が期待されている。

本事例は、外部支援者が対話と共創を重視し、社員参画を促すことで、経営革新を持続可能な形で実現できることを示している。他の中小企業にも応用可能な、人材育成と組織変革の有効なアプローチである。

研究会紹介

事業承継研究会

—「事業承継研究会」はどのような活動をしているのですか？

事業承継研究会は、事業承継の支援力向上と実践的な学びを目的に活動しています。研究会では単なる理論や知識の習得にとどまらず、実際の企業支援を通じて診断士としての実務力を磨くとともに、他士業や支援機関とのネットワークを広げることで、より実効性の高い事業承継支援を実現しています。



老舗の永楽屋様にご講演いただきました。

—参加メンバーの特徴について教えてください

ベテランから今年登録の新診断士まで幅広いです。事業承継について経験豊富な診断士も未経験診断士も在籍中です。

—過去の活動内容について教えてください

定例研究会に加え、事例発表・専門家講演を実施し議論を深化しました。昨年度より「事業承継PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）」を開始（希望者制）。チームで実際の事業者を支援し、ヒアリング・観察、課題整理、承継計画提案までを経験。「実践を通じた学びが大きい」と高評価を得ました。

—今後の活動目標を教えてください

PBLを継続し、弁護士会など他士業と連携を強化して専門性の高い支援体制を構築します。IVS 2025サイドイベントを開催し、約600名に参加いただきました。外部発信を拡大し地域・企業への価値を向上しました。「楽しみながら学び、実践する」を軸に最前線での活躍を推進して参ります。

（林 勇作）



事業承継PBL事業者様への最終報告会の模様

人材開発研究会



会員発表の高橋さん

—研究会の活動について教えてください。

活動内容は毎年3～4月に会員で話し合って決めます。今年度は会員による発表を中心に進めています。各自の専門分野を活かしながら、一方的な講演ではなく質疑応答や意見交換を重視している点が特徴です。

【今後の予定】

9月24日	岩崎弘之会員	「旅行業界のリアルと人材課題」 ～かつての人気業界から学ぶ採用・育成のヒント～
10月29日	正木祐司会員	外国人材
11月26日	森田祐司会員	キャリア開発

—会員にはどんな方が多いですか。

以前は企業内診断士が中心でしたが、現在は独立されている方が増え、コンサルタントに限らず、経営されている方や大学教員など、多様な方が集まっています。

—これまでの活動を振り返ると？

昨年までは個別企業の事例研究を行い、インタビューを通じて会員から提言をまとめました。例えば2021年度は青果卸売企業の組織文化、2023年度は老舗料亭の評価基準、2024年度は同料亭の採用について取り組みました。

—今年度の予定と、未会員へのメッセージをお願いします。

「人に関することなら何でも」を基本コンセプトに、会員の関心に応じて活動を広げていきます。専門知識や経験の有無は問いません。私自身も人事経験のないまま参加しましたが、仲間の知見に触れることで自然と理解が深まりました。学びの場としても交流の場としても有意義ですので、ぜひお気軽にご参加ください。（阪本 純子）



高級ホテルで懇親会

診断士なら知っておくべき「経営者の頭の中」、紐解きます。

5 RULES

“ルールが経営を映し出す”

中小企業診断士が大事にすべき経営者は、「人」。
あえてビジネスモデルではなく、「その人のマイルール」
を紐解くことで、独自の経営マインドや生き方に触れる。

京都の“イマ”を創り出す経営者に聞きました。

「あなたのルールは何ですか？」



創業明治四十二年

堤浅吉漆店

tsutsumi asakichi urushi / since1909



株式会社堤浅吉漆店 代表取締役社長 堤 卓也 様

京都で明治42年から続く堤浅吉漆店四代目。北海道大学農学部卒業後、精肉業を経て、2004年に家業を手伝うためUターン。2016年より「うるしのいっぽ」など新しい取り組みをスタート。2025年3月に代表取締役に就任、4月には卓越した家族経営企業を支援するプリマム・ファミリエ・ヴィニ（PFV）を受賞し、全世界に漆文化を発信。既成概念に囚われない漆の可能性を追求し続けている。

1 自然とともに生きる

北海道では畜産を学びながら、スノーボードやサーフィンなど大自然に囲まれた暮らしを謳歌し、その後ニュージーランドへ留学。そこでは物々交換経済での人の温かさや、人と自然が共に豊かになれるよう生活をデザインしていくパーマカルチャーという考え方に触れた。帰国後、社会人として励んでいる中、父からの突然のオファーを受け家業に入った。

一見回り道のようなのであるが、北海道やニュージーランドでの経験を通じて得た「自然と共生する」感覚は、今の考え方や漆の仕事につながっており、自身を突き動かす原動力となっている。

2 漆文化の永続を願い行動する

漆は、縄文の時代から現代にいたるまで人類の道具として使われ、人と道具や人と自然を滑らかに結びつけるインターフェースとして存在している。このコンセプトが普及すれば、人は道具や自然を大切に扱い、持続可能な世の中にも変わっていく。この想いで、漆の魅力や機能を子どもにも大人にも分かりやすく伝える「うるしのいっぽ」という活動を2016年に開始した。この活動は業種や海を越え、漆塗りのサーフボードやスケートボードを生み出すに至った。会社の存続以上に、漆文化の永続を願い行動する。

3 個人を尊重する家族経営を行う

創業者である曾祖父が工法を編み出し、それを祖父が受け継いだ。今は、父は経営と営業を、弟は工場長、そこに義理の弟も加わり4人の家族経営。子どもの頃、祖父が漆でいろんなものを直してくれた。カッコ良くて優しくその原体験が漆への愛着を生んだ。自分はモノづくりの人なので、経営者の父と衝突することもある。それでも何とか支えあってこれたのは家族だから。子どもが跡を継いでくれてもいいが、全く違う人生を経験してほしいという気持ちもある。「家」を守るのではなく、家族1人1人が自分らしく充実した人生を送れる家族経営を目指す。

4 若者の幸せを考え後押しする

コロナ前から徐々に漆芸を志す若者を迎え入れてきた。これまで気ままに仕事に臨んできたが、社員が増え、「会社組織として稼げるように」と責任感が高まった。元来材料屋でありながらも、将来漆塗りとして独立を目指す社員のために、本業の合間に漆塗りの職人から教えを乞う機会も設けている。塗りの技術だけでなく、素材への深い造詣や取引先との人脈などを幅広く体得し、一人前の職人として生計を立ててほしい。そして漆の魅力を上げてほしい。そんな人材を送り出せるよう、社内や業界内の環境づくりに余念がない。

5 使い手を増やす

代表取締役への就任も登記上のこと。漆を伝える活動を続けていく考えに変化はない。この先10年、大げさなビジョンではないものの、暮らしの中に漆がある状態を理想として掲げている。漆の需要が飛躍的に増えることはない。しかし、漆の用途の可能性は確実に広がっていく。国境を越え、さらには宇宙空間までも。「うるしのいっぽ」、「工藝の森」といった活動に、昨年本社内にオープンした漆のアンテナショップ「Und.」を加えた。漆に触れ、その良さを感じてもらい、漆の輪を広げる活動を今後も自然体で続けていく。漆を植える人、漆を掻く人、漆を使う人、一緒に活動するすべての仲間たちにハッピーになってほしい。漆で生きてきた家系として、漆への恩返しを続けていきたい。



（記者：内藤 朗人・池田 瞬介・松浦 由加子・松延 健吾）

猛暑を吹き飛ばす笑顔！ 第3回バーベキュー大会を開催

令和7年8月2日（土）、京都府中小企業診断協会の恒例行事となったバーベキュー大会が「バーベキューコート339」にて開催されました。会員同士やご家族の親睦を深めるこの会も今年で3回目。真夏の京都は最高気温37.1℃の猛暑日でしたが、屋根付き会場のおかげで快適に過ごすことができました。参加者は21名、笑顔に



BBQの火柱



スイカ割り

包まれたひとときとなりました。

会は白井さんのご挨拶と乾杯でスタート。牛タン、カルビ、ロース、ホルモンなどの定番肉に加え、鹿や猪といったジビエも登場し、参加者の舌を楽しませました。焼き台では時折豪快な火柱が上がり、これぞバーベキューという迫力満点の光景も見られました。大型タンクには大量の氷で飲み物

が冷やされ、いつでもキンと冷えた一杯を味わえました。

今年の新企画・流しそうめんでは、松尾理事の娘さんがそうめんを流してくれ、皆夢中になって、箸を伸ばしました。恒例のスイカ割りでは大きなスイカを子どもと大人が順々に叩きましたが、なかなか割

れませんでした。最後は谷口正人さんが豪快に一刀両断！大きな拍手と歓声が沸き起こりました。

締めは松尾理事のご挨拶で会は笑顔のうちに終了。新入会員の方の参加もあり、新たな交流が生まれ、笑顔あふれるひとときとなりました。ご準備いただいた会員サポート部の皆様、そしてご参加くださった皆様に感謝申し上げます。次回も多くの方のご参加をお待ちしております。（坂根 宏和）



全体写真

令和7年度 第1回理論政策更新研修 開催

去る8月23日（土）、京都経済センターにて、今年度第1回目となる理論政策更新研修を開催しました。

第1部では、京都府商工労働観光部部長の上林秀行様に「新しい中小企業政策について ～未来を拓く京都産業の現実にむけて～」と題し、グローバル・スタートアップ・エコシステム、「Kyoto Japan」海外戦略プロジェクトなどについてご説明いただきました。上林様は、中小企業支援体制を強化し、金融と経営支援を一体化し



京都府商工労働観光部部長
上林様

た伴走支援や地域産業の持続的発展などに貢献してこれ、これらの取り組みの歴史についても理解しやすい形でご紹介くださいました。

第2部では、協会会員であり、橋本経営相談事務所代表の橋本隼人氏に「中小企業の事業承継 ～次世代につながる事業のリアルな現場から～」と題して、事業承継の現状と課題、支援事例などについてご説明いただきました。橋本氏は、金融機関での営業、人材育成などの経験と事業承継の深



協会会員 橋本氏



研修風景

い知識や伴走支援経験をもとに、実例を交えて分かりやすく解説されました。更新研修の参加者は105名。参加者の皆さんは、診断能力の更なる向上に向け、熱心に聴講されていました。次回の理論政策更新研修は11月15日（土）に開催します。是非ご参加ください。（谷口 宏人）

はんなり診断士



たにぐち よしみ
谷口 佳巳

Biz Groove Consulting・代表

はじめまして。京都生活協同組合で38年間勤務し、今年3月に60歳で退職、5月に開業しました。前職では食品宅配の企画・宣伝、ECサイト構築、中期計画策定、ブランディング、マーケティング、デジタルシフト、小売電気事業など幅広く経験しました。診断士の登録は経営企画を担当していた2019年です。経営計画の策定と実行支援、マーケティング戦略、顧客（B2C）分析に強みを持ち、組織内のさまざまなプロジェクトを推進してきました。これらの実務経験を活かし「自ら学び、自走できる組織づくり」に貢献したいと考え、6月に入会いたしました。診断士と並行してギタリスト活動、農業（米づくり）も行っています。ご指導よろしくお願いいたします。



ふかの たつや
深野 超矢

皆さま、はじめまして。深野超矢と申します。2024年11月に20代で中小企業診断士登録、2025年6月に京都府中小企業診断協会に入会いたしました。銀行員として融資や財務分析を通じ中小企業経営者と向き合う中で、企業だけでなく経営者の人生も支える存在になりたいと感じ、診断士を志しました。現場感覚と数字へのこだわりを土台に、財務や経営改善、業務改善やIT活用を含めた多角的なサポートで成果につなげます。若いうちに挑戦し資格を取得できたからこそ、長期的に地域に貢献できる診断士であるべく日々スキル向上に努めています。諸先輩方からご指導をいただき、一步ずつ成長してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



ほんだ はやと
本田 勇人

ミライドア株式会社 投資本部 投資部

はじめまして！2025年3月に京都協会入会させていただいた本田と申します！銀行で10年ほど法人営業として中堅中小企業からスタートアップまで広く担当をさせていただいた後、現在は京都のベンチャーキャピタルで、投資先の発掘及び投資先育成支援業務に携わっています。長年様々な企業と関わらせていただく中、金融面だけでなく、より広い視点で企業の課題に向き合っていける存在になりたいと思ったのが診断士取得のきっかけです。診断士としては活動を始めたばかりではありますが、これから様々なことにチャレンジし、活動の幅を広げていきたいと考えています！ぜひ、今後ともよろしくお願いいたします！



まつなみ たつや
松浪 辰也

松浪アドバイザリーサービス

皆様、こんにちは。2025年4月に京都協会に入会しました、松浪と申します。京都市西京区出身、長岡京市在住の独立診断士です。1998年に立命館大学を卒業後、会計事務所を経て、ケーブルテレビ会社にて管理部門の責任者を務め、2006年に中小企業診断士として登録後、京セラ系列のコンサル会社でアメーバ経営や人事制度の支援に携わり、2010年に独立開業し、中小機構アドバイザーとしての支援機関サポート業務や、西日本旅行業協同組合の代表理事を兼任しながら、財務診断、事業計画、販路開拓、M&A、観光、IT活用など、幅広い分野で中小企業等を支援してまいりました。今後は、京都協会の多様な専門性を有する方との連携を強化し、京都府内の中小企業支援に貢献してまいります。よろしくお願いいたします。



やまざき ひより
山地 日和

モジュールコンサルティングオフィス
大阪経済大学 企業支援担当 特別研究所員

交流会や研究会でいつもあたたかく迎えてくださって、ありがとうございます！化学メーカーやメディア会社の経理・人事総務出身。社内を横断して、会社の仕組みづくりをする仕事をしていました。会計事務所での支援業務を経て2023年に独立。2025年4月診断士登録、5月入会です。

平易な言葉や図解でわかりやすく伝えます。最近はセミナー・研修案件が増えてきて研鑽中。テーマは戦略・新事業・管理業務の効率化（標準化、システム活用）、業種は製販（特に日本酒）・サービス業（教育・技術・アートなど）が多め。好きな飲み物は日本酒。春鹿にて日英仏3か国語の利き酒を案内してきました。京都なら英黠・城陽推し。こちらも研鑽がんばります！



ゆざわ まこと
湯澤 真

湯澤経営サポート株式会社

皆様はじめまして、湯澤真と申します。2020年に診断士登録し、2024年12月に京都協会に入会しました。精密機器メーカーの生産設備開発、自治体での中小企業支援の仕事を経て、診断士登録を機に独立しました。今はこれまでの経験を活かし、製造業を中心とした経営改善や事業承継の支援を行っており、京都府事業承継・引継ぎ支援センターの事業承継・M&Aの支援にも従事しています。事業承継に関しては多様な分野の知識が要求されるため日々勉強しながら取り組んでいますが、京都の企業の継続と成長に貢献できる診断士を目指したいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

My favorite

診断士のお気に入り

ほぼ日手帳

高橋 好美

デジタルで予定管理をする人が増えているのに関わらず、毎年秋になると手帳コーナーが大盛り上がりですね。私が今回ご紹介するのは、「ほぼ日手帳」です。世の中、手帳好きの方も多いですが、例にもれず私も中学生の頃から毎年手帳を買っています。WebだSNSだと、デジタルを得意そうにしていますが、手帳は断然アナログ派。手帳を眺めている時間が大好きだったりします。

これまでもいろいろな手帳を使ってきましたが、大学生の頃「ほぼ日手帳」に出会ってから毎年1冊は「ほぼ日」を購入しています。い



ろいろなシリーズがあるのですが、ここ数年は「ほぼ日手帳weeks」が大活躍。子どもを産むまでは1日1ページの「オリジナル」だったのですが、荷物が増えた

ため薄型の「weeks」を使うようになりました。長財布と同じくらいのサイズ感が絶妙で、予定管理といろいろなメモが主な用途です。マンスリーの1日のマスが縦長なのですが、それが絶妙に私のスケジュールにちょうどよい。

毎年、使い始めの儀式として、手帳の中表紙にナンバーを入れているのですが、2025年は20なので、ほぼ日手帳歴20年。20年も同じ手帳を使って、浮気はしないのか？ということですが、します。面白い手帳を見つけると、使ってみたくなる性分で、2025年もサブ手帳としてもう1冊使っています。そちらは主にバーチャルページをタスク管理に活用しています。手帳は、日付の入ったメモ帳かノートのように思っているかもしれません。何冊あっても面白いですよ。

次回は、梅田一樹さんにお気に入りをご紹介します！

京都の診断士だったら
知っておきたい基礎問題にチャレンジ!!

検京
定都

京都・観光文化検定試験
京都商工会議所

本事業は
京都検定を応援しています

Q 世界遺産の天龍寺は、足利尊氏が後醍醐天皇の冥福を祈るために開創したが、そのとき開山に迎えたのは誰か。

(『第10回京都検定 問題と解説』(京都新聞出版センター刊) 3級74問より一部抜粋)

A (ア) 夢窓疎石 (イ) 一休宗純
(ウ) 宗峰妙超 (エ) 蓮如

表紙の写真と連動した問題をセレクトしてお届けします。

編集後記

秋です。これを書いている頃は、甲子園が開催されている時期です。

中小企業診断士に関係するニュースとして、「行政書士法の改正」というトピックがありますね。2026年1月1日から変わります。「報酬を得て、官公署に提出する補助金申請書類を作成する業務」が行政書士の独占業務として明確化される中で、今までと変わらない先生も新しい在り方を問われる先生もおられると思いますが、このような外部環境変化に私たちも適宜対応していかないと、と強く思う今日この頃です。(松田)

※表紙の写真は、大本山天龍寺の塔頭寺院のひとつである大亀山 宝蔵院です。
室町時代に細川頼之公の財をもって、天龍寺開山夢窓国師より三世の法孫にあたる聖仲永光禪師を開山に迎え創建されました。(引用：宝蔵院について <https://hoganin.jp/about/>)